



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第15号

目次

- 大学評価講演会「評価作業と大学データベース：自己評価と第三者評価において」
- 独州バイオコンバレーミッション来学とRostock大学との研究交流
- 学長と各学部長等との懇談会について
- 大阪教育大学・三重大学教育学部合同知的財産教育研究セミナーが開催される

- 「東海地区国立大学図書館協会総会」
- 「植物系分子素材の高度循環活用システムの構築」
- 平成16年度第1回災害対策プロジェクト室会議の開催について
- マーサー大学医学部から訪問団
- 植物育成監視装置システムの運用開始

お知らせ

本学HP(<http://www.mie-u.ac.jp/>)最新情報掲載

大学評価講演会「評価作業と大学データベース：自己評価と第三者評価において」

4月21日、総合研究棟Ⅱメディアホールにて岩田教授（独立行政法人 大学評価・学位授与機構 評価研究部）による標記の講演が行われました。豊富な経験に基づく講演で、質疑応答もあり、大学や学部単位で特色を持ったデータベース設計の必要性が確認されました。その意味において、今後の取り組みに大きな示唆が与えられたものと総括され、有意義なものとなりました。講演の主な内容は、以下の2点です。



岩田教授

- 1) 国立大学の法人化と連動する形で評価作業が開始された経験が語られるとともに、根拠資料に基づく評価の重要性が指摘されました。また、各大学の現状と諸外国のデータベースの比較とともに、データベースの重要性が述べられました。
- 2) 試行評価における大学の自己評価書において、どのようなデータ項目が使われているか、の紹介も行われました。

独州バイオコンバレーミッション来学とRostock大学との研究交流

ドイツ北東部Mecklenburg-Vorpommern州のバイオコンバレー訪問団(Ebnet州経済大臣ら14名)が5月13日三重県を訪れ、“みえメディカルバレープロジェクト(みえMVP)” (<http://www.mvp.pref.mie.jp/>)と協力協定を締結しました。昨年10月に三重県、県下の企業、三重大学の合同視察団(団長：現豊田学長)が同州を訪問した際、県州の交流協定に加えてRostock大学と本学との大学間交流協定を検討することで合意しました。5月13日、Rostock大学医学部の心臓外科Steinhoff教授と神経内科Rolfs教授が本大学を公式訪問され、学術交流協定を締結する方針を確認しました。まず始めに再生医療の分野で本学医学部(学部長：鎮西康雄教授)と共同研究や学術交流を早急に行うことに同意しました。また、本学医学部で再生医療に関する合同カンファレンスを開催しました。なお、三重県と県下の企業、本学から成る訪問団がこの10月末から11月上旬に再びドイツバイオコンバレーを訪れると共にスウェーデン・デンマークも訪問する予定になっています。



豊田長康学長

Rostock大学
シュタインホフ教授



鎮西医学部長



MV州
オットー・エーブネット
同州経済省大臣

学長と各学部長等との懇談会について

大学執行部と各部局とのコミュニケーションを深めるため、学長及び理事と学部長、学部執行部(医学部は学部長のみ)との懇談が5月7日人文学部、10日工学部、11日生物資源学部及び医学部、12日教育学部との間で実施されました。今回は、学内予算の配分に関する事項を中心として、大学全体及び学部の将来構想、学部運営の現状と課題、中期計画の実現や評価への取組、地域連携など、幅広い話題について、それぞれ2時間程度でしたが活発な意見交換が行われました。

今後このような機会を積極的に設け、相互の意志疎通を図ることとしています。

大阪教育大学・三重大学教育学部合同知的財産教育研究セミナーが開催される

2月14日、大阪教育大学のキャンパスで標記のセミナーが開催されました。これは大阪教育大学と本学教育学部（事務局：松岡守教授）が共に特許庁から知的財産教育のあり方に関する研究委託を受けていることに伴うもので、年度ごとに場所を交代して開催しているものです。両大学研究者の他、附属学校園、研究協力校の教諭も交えて一年間の研究と教育実践の成果の発表と意見交換が行われました。

「平成16年度東海地区国立大学図書館協会総会」

4月23日に、三重大学を当番校として、本学附属図書館会議室で、標記の総会が開催され、東海地区の国立9大学の図書館長・部課長等が参加しました。開会に先立って、本学豊田学長から挨拶があり、本学附属図書館（館長：亀岡理事）が、議長に選出されました。7月に開催される国立大学図書館協会総会での提案事項等、国立大学図書館協会に関わる事項について協議したほか、東海地区図書館協会の本年度事業として、公共図書館との連携及び防災に関わる巡回シンポジウムや講演会を開催することを承認しました。



「植物系分子素材の高度循環活用システムの構築」

平成11年度より科学技術振興機構（JST）の戦略的基礎研究（CREST）（研究費総額5億5千万円程度）を標記テーマで5年間行ってきましたが、この度、それに続く発展型研究（Solution Oriented Research for Science and Technology（SORST）（研究代表者：船岡正光・生物資源学部教授）に採択されました。CREST研究が本年10月まで継続しますので、その後研究組織を組みかえ、11月よりSORST研究として進めることになります。（5年間継続、研究費の総額は2億5千万円～3億円程度）

平成16年度第1回災害対策プロジェクト室会議の開催について

昨年12月に地域貢献特別支援事業の一環で設置された、災害対策プロジェクト室（DMPO 室長：森野捷輔理事）が主催するDMPO 会議が5月14日に開催され、昨年度行われたプロジェクト（三重県とのタイアップ事業9件、三重大学事業8件）の報告と、今年度行われる予定のプロジェクトに関する意見交換が行われました。学内および三重県から多くの参加があり、今後も三重県地域の防災関連事業を、官学の強力な連携のもと進めてゆく事などが確認されました。



マーサー大学医学部から訪問団



5月9日から12日にかけて、本学医学部と交流協定を結んでいる米国マーサー大学医学部から、Lin国際交流担当副学長、Hash教育担当学長補佐夫妻、Butler産婦人科教授夫妻の5名の訪問団が来学されました。

医学・医療教育開発推進センター（センター長：津田司教授）のもと、チュートリアル室などの医学部内見学の後、医学科教員とともにRound Table Discussion（テーマ：①PBL-チュートリアル教育、②診療参加型臨床実習）を開催し、医学教育について大変有意義な情報交換を行うことができました。

植物育成監視装置システムの運用開始

NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の平成15年度大学発事業創出実用化研究開発事業費助成金を受け、「エネルギー・環境調和型を核とするニューグリーンビジネス創生のための要素研究」として研究された植物育成監視装置システム（写真）が、平成16年5月からインキュベータ向かい側にある生物資源学部圃場で運用を始めました。これは（株）三重TLOの事業として、本学生物資源学部のシーズ研究を用い、（有）イーラボ・エクスペリエンス、（株）芝共、（株）赤塚植物園等を事業化事業者として新しいオフィス緑化・屋上緑化を目指す調査研究で、このシステムの骨格となる基本技術の検証と調査が行われました。開発されたシステムは農水省ITプロジェクトで生物資源学部（学部長：天野秀臣教授）もかかわっている圃場情報戦略で重要な位置を占めています。



お知らせ

本学HP (<http://www.mie-u.ac.jp/>) 最新情報掲載

- ・6月 3日（木）、ロンドン大学アジア・アフリカ研究所夏季研修プログラム説明会・相談会
- ・6月12日（土）、本学三翠ホールにて第4回国際シンポジウム「江戸のモノづくり」開催

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、地域育成、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。亀岡孝治（vpre-info@mie-u.ac.jp）または井上真理子（mariko-i@ab.mie-u.ac.jp）まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾